3連覇で騒げ!!

バタフライを泳ぐ上川畑

優勝をねらう吉田

チームを率いる小嶋主将

明大スポーツ
第101回インカレ特別号
9月4日木曜日
令和7年（2025年）
千代田区神田駿河台1の1

第101回日本学生選手権
（東京アクアティクスセンター）
◆競泳　9·4～7

レイアウト：橋本太陽
書き手：明スポ競泳担当一同

明スポ公式
インスタグラム
インカレ期間中毎日更新！

応援席で盛り上がる選手たち（撮影：上原朋子）

泳力底上げで見据えるは王座のみ　「一番イケてる」最強軍団がつかむ天皇杯

3年連続で天皇杯獲得へ。ここまで紡がれた大学日本一という糸を切らすまいという思いで、日本学生選手権（インカレ）までまい進してきた。『mighty』というスローガンに込めた〝力強い、偉大〟の意味。圧巻の強さを見せることに違いない。

黄金世代の後継者

昨年度、国内外問わず好成績を収めていた柳川大樹選手（令7政経卒・現名岐不動産）、五味智信選手（令7商卒・現ミキハウス）、廣島偉来選手（令7政経卒）、田渕海斗選手（令7情コミ卒・現明大大学院）らの卒業。この超強力な戦力を欠くことは、チームにとっての課題だった。「去年はエースたちに頼れる状況だったが、今年はそのような絶対的なエースがいない」（小嶋壮主将・情コミ4＝桐光学園）。この課題に対して「（エースがいないという状況の中で）どのように勝つのか。やはり平均の底上げ、全体の底上げだと思う」（小嶋）と、チーム全体でのさらなるレベルアップが求められる状態だった。

そのレベルアップの効果があって、インカレまでの団体戦、振り返ってみれば全て優勝終えていた。東京六大学春季対抗戦、法政・明治・立教三大学定期戦については驚異の10連覇。その後の関東学生選手権（カンカレ）では、2位の中大に161点もの差をつけての優勝を果たした。インカレに向けて、着実に全体的なレベルアップを遂げている。

リレーの借り返す

もう一つの目標としてリレー制覇がある。毎年インカレでは会場中が盛り上がり、応援の熱が一層増す競技だ。昨年度、4×100㍍フリーリレー、4×200㍍フリーリレーは優勝を果たしたものの、4×100㍍メドレーリレーでは銀メダルという悔しい結果となった。金メダルを取った近大は、未だ破られない学生記録の3分34秒06をたたき出した。しかし、明大も当時の学生記録と同着の3分34秒82だったために、その悔しさは人一倍であった。昨年度のリレーメンバーであった小嶋と成嶋義徳（政経3＝八王子学園八王子）は「来年度こそは（平泳ぎで）差をつけたい」（小嶋）「記録は去年出たメドレーリレーよりも遅かった。4年生と金メダルを取りたかった」（成嶋）と悔しさを見せた。今年のリレーメンバーは当日まで不明だが、一昨年度からメドレーリレーの決勝メンバーである小嶋と成嶋の出場は予想される。チームの思いを背負った、それぞれのリレーの4人に注目が集まる。

『mighty』の下に

昨年度築き上げた、2連覇という実績でついたプライド。昨年度味わったリレーでの惜敗。周りからの重圧や期待に加えて、この二つを抱えながら戦い抜いてきた明大ならば、3年連続の天皇杯も夢でない。

このチームで戦えるのは今だけ。だからこそ、〝今〟の明大で天皇杯を取ることこそが『mighty』すなわち力強さ、偉大さを示すことになる。誇りも、悔しさも、全てを糧にした王者のレースから、目が離せない。【中川美怜】

見逃せない！明治の注目株

学年	名前（学部）	出身高校	種目	自己ベスト	昨年度インカレ順位
4	江沢陸（法）	成田	1500㍍自由形	15分24秒66	8位
	小嶋壮 主将（情コミ）	桐光学園	100㍍平泳ぎ	1分00秒50	4位
	清水博斗（政経）	日大藤沢	200㍍自由形	1分48秒11	3位
	庭野直樹（商）	埼玉栄	400㍍自由形	3分51秒59	B決勝2位
			400㍍個人メドレー	4分17秒92	―
3	上川畑英（政経）	桐光学園	400㍍個人メドレー	4分12秒74	5位
	成嶋義徳（政経）	八王子学園八王子	100㍍バタフライ	52秒10	1位
	吉田悠真（農）	春日部共栄	200㍍平泳ぎ	2分10秒31	2位
	渡辺裕太（営）	日大藤沢	200㍍個人メドレー	1分58秒46	4位
2	加藤涼（政経）	中京大中京	200㍍自由形	1分48秒44	B決勝4位
			200㍍個人メドレー	1分58秒91	8位
	川野博大（商）	武南	200㍍バタフライ	1分56秒31	B決勝8位
	西村優雅（情コミ）	湘南工科大付	100㍍背泳ぎ	54秒66	B決勝4位

20年前に特集!!
日本一アツい監督

かつて明大スポーツ新聞部（明スポ）の1面を飾り、日本選手権2冠を達成して世界へ挑んだ佐野監督。今、その視線はプールサイドから後輩たちへ向けられる。「水泳だけではない。人として成長し、感謝を忘れず、応援される選手になれ」。その言葉は明大の全員に響き、日々の練習や試合の中で息づいている。現役時代に刻んだ勝者のメンタリティを、指揮官として受け継ぎ、王者の座を守り抜く。さらなる高みへ。再び、明治の夏が始まる。

←2005年5月に発行された明大スポーツ第346号の1面記事。水泳以外の趣味は「湘南の海でサーフィン」と書いてあります！

全日本個人メドレー200·400m2冠の快挙

明大スポーツ

驚泳!! 決めた世界水泳代表

佐野

上野代表監督「メダルを獲ってもらう」

伊藤（商2）も世界水泳出場!! 詳細は2面

指笛で選手を鼓舞する佐野監督

選手に聞いてみた！！
教えて！チームの〇〇

・同期の選手を一言で表すと？
1年　元気（伊東）
2年　わちゃわちゃ（高尾）
3年　動物（木津喜）
4年　最強！（庭野）

ポーズを決める3年生男子
2025・4 東京六大学春季対抗戦にて

・お気に入りのアイテムは？
鉄ステッチャー（成嶋）
フランスで買ったピンクのアイマスク！（成田）

・最近の個人的ニュースは？
ボーイッシュなファッションにハマっています！（長尾）
インコを助けました（北村）

・チームメートでインカレ期待の選手は？

川野博大！
三大学（第58回法政・明治・立教三大学定期戦）でベストを更新して、この間行われたカンカレ（関東学生選手権）でも優勝しており、昨年のインカレではチームの中で1番悔しい思いをした選手なので、今年はひと味違う姿を見せてくれると思います！（上川畑）

4年生の女子選手お二人！
ラストイヤーの爆発に期待！（木津喜）

2025·3 日本選手権で泳ぐ川野

・インカレの注目ポイントを教えてください！
私の水泳人生最後の試合になるので魂を込めた泳ぎをします🔥（庭野）
今年の明治は女子チームも強いという所を見てほしい！（長尾）
加藤涼が決勝進出者発表時に手を合わせてお祈りします（吉田）

選手を支えるマネジャーに聞いてみた！

昨年度のインカレ応援席

昨年度の祝勝会の様子

現4年生女子メンバー
（左から長尾、山岸マネ、忽那マネ、遠藤）

・普段の練習で、マネジャーさんだからこそ気づける選手の努力は？

練習後もスタート練習などを繰り返し行っている選手の姿（忽那知美・4年）

日々の練習でタイムを計測する中で前回と同じメニューでもタイムが縮まっていたりアベレージが上がっていたりすることがあって、そういうのを間近で見ることで日々少しずつ選手たちがタイムを縮めるべく試行錯誤して練習に臨んでいるんだなと気づくことができています（仮屋祥子・1年）

・このチームのインカレを一言で表すなら？

継承（山岸美咲・4年）
忍耐（岡田日南子・3年）
最高のチームで夢の3連覇へ（阪本渚・1年）

3年前の決意を胸に　女子部主将・長尾

「4年時のインカレの個人種目で優勝したい」。3年前そう語ったのは、2年連続で女子部主将を務める長尾佳音（営4＝武蔵野）。当時1年生だった長尾は、4年間の一番の目標として『ラストイヤーでのインカレ優勝』を挙げた。その目標に向かって、過去3大会は好成績を残してきた。ルーキーイヤーに200㍍自由形で4位入賞を果たすと、2年時には200㍍自由形と400㍍自由形でともに準優勝。昨年度も同種目で銀メダルと銅メダルを獲得し、2年連続で2種目表彰台入りしている。

長尾の強みはやはり〝後半の追い上げ〟だ。終盤になるにつれてぐんぐんと伸び、最後に差すというのが得意の形。入学前から抜きん出ていたが、この3年間でさらに磨きをかけ「今も変わらず自分の強み」と確固たる自信を持つ。先月ドイツで開催されたFISUワールドユニバーシティゲームズでは400㍍自由形で自己ベストを更新し、5位入賞。世界でも通用するまでに成長した。

しかし全国大会の優勝からは長年遠ざかっている。最後に頂点に立ったのは、中学3年時に100㍍自由形と200㍍自由形で2冠を達成した全国中学校大会。インターハイでは、優勝候補と目されながらもあと一歩届かず。その雪辱を果たすべく明大へ進んだ。

自慢の追い上げが大学ラストレースを彩る　最後は金で

そして迎える最後のインカレ。「入りの部分は200も400も意識して練習している。後半の強みを残しつつ、前半がうまく入れれば自己ベストはおのずと出る」と理想のレース展開に向けて、強度の高い練習を重ねてきた。7年ぶりの栄光に向けて、舞台は整った。有言実行を果たし、有終の美を飾ってみせる。【末吉祐貴】

インカレ直前
最新インタビューはこちらから

表彰式で笑顔を見せる長尾

◆長尾　佳音（ながお・かのん）営4、武蔵野高。FISUワールドユニバーシティゲームズ2025では400㍍自由形で5位、4×200㍍フリーリレーで3位入賞。女子キャプテンとしても活躍した。

学年	名前（学部）	出身高校	種目	自己ベスト	昨年度インカレ順位
4	長尾佳音（営）	武蔵野	200㍍自由形	1分59秒76	2位
	遠藤渚（理工）	八王子学園八王子	100㍍背泳ぎ	1分02秒12	B決勝3位
3	木津喜一花（商）	淑徳巣鴨	100㍍バタフライ	58秒91	―
2	田村真優（営）	目黒日大	100㍍自由形	55秒95	B決勝3位
1	伊東開耶（政経）	昭和学院	100㍍自由形	55秒53	―
	成田実生（情コミ）	淑徳巣鴨	400㍍個人メドレー	4分33秒26	―
			200㍍背泳ぎ	2分09秒54	―

記者の目
スーパールーキー　成田実生

◆成田　実生（なりた・みお）情コミ1、淑徳巣鴨高。400㍍個人メドレーでパリ五輪6位入賞。今年3月の日本選手権で2冠を果たすと、世界水泳2025で銀メダルを獲得。その他、200㍍個人メドレー、200㍍背泳ぎにも出場。海外遠征では卓上カレンダーを持っていくなど、部屋を自分のスペースにしてリラックスできるようにしているそう。

世界2位の実力派　明治に旋風巻き起こす

先月行われた世界選手権で銀メダルを獲得し、今や日本競泳界をけん引する天才スイマー・成田実生（情コミ1＝淑徳巣鴨）。明スポが初めて成田に取材をしたのは、高校最後の日本選手権を控えた頃だった。質問に的確に答える姿は、取材慣れしているように思えたが「大勢に囲まれて取材されると、何を質問されたか分からなくなるくらい緊張する」と苦笑いを浮かべる様子は、どこかあどけなさを感じさせた。また、成田にとって始めての大学対抗戦となった東京六大学春季対抗戦では、新しい紫紺のジャージーを身にまとい「みんな明るくて個性が強くて最高」な同期や先輩と〝チーム明治〟での戦いを楽しむ姿が。応援団の指揮に合わせ、チームメートの応援にも全力を尽くした。レース前の凛とした表情とは裏腹に、屈託のない笑顔と無邪気さで周りを惹きつけている。

明大ジャージーを着て笑顔を見せる成田